

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100223		
法人名	株式会社オハナ		
事業所名	三ヶ日グループホーム		
所在地	浜松市北区三ヶ日町都築2922-2		
自己評価作成日	令和4年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和4年 12月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和4年 10月 14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナウイルス感染拡大の防止の為、外出や外部の方との行事を中止しています。「心に寄り添い、心と心が通う時間を」という理念があり、具体的な方法として傾聴を掲げている。  
 毎日朝礼にて「穏やかな態度言葉遣いで接しましょう」と意識付けを行っている。日常生活でそれぞれの利用者様の出来ることを見つけ、掃除や洗濯、調理を手伝っていただきながら生活することで生き生きとした表情が見られるように支援を行っている。  
 職員においては介護福祉士を取得している職員が半数以上勤めている。  
 自由を大切に、ゆったりとした雰囲気の施設である。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は同じ法人のデイサービスと隣接している。コロナ禍で以前できていた近隣の幼稚園や小学校との交流はできない状況であるが、ドライブなどで外に行く機会を増やしている。職員は毎朝法人理念である「人と人に寄り添い、心と心が通う時間を」を基に施設理念である「穏やかな態度、言葉遣いで接しましょう」を唱和し利用者さんが毎日をゆったりと過ごせるように心がけている。利用者さんにできるところは積極的に手伝っていただき生活リハビリにも取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「心と心に寄り添い、心と心が通う時間を」を共有している。理念に基づき職員が利用者様と穏やかに接する事が出来るように、朝礼時に出勤職員で共有行っている。	法人理念を基に「穏やかな態度、言葉遣いで接しましょう」を施設理念としている。心に寄り添えるように、朝礼時には全職員で唱和し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の拡大の為、地域行事への参加や近隣小学校との交流ができていない。秋祭りも施設内での開催にとどめて行った。近隣の障がい者施設のウクライナ難民支援の企画に利用者様に絵を描いて頂き参加した。	コロナ禍のため地域との交流はできない状況であった。感染拡大が減少し落ち着いてきたところで、面会の再開や以前行っていた施設内行事や他施設との交流を少しずつ増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度の認知症カフェを行っていたが、コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度も開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染症の拡大防止の為、今年度も書面開催とさせて頂いた。FAXやメールを用いて報告についての評価や助言を受け、議事録を閲覧できるようにしている。	書面開催であり議事録を特定の参加者(行政、自治会、民生委員、地域包括、家族等)に発送し報告をしている。	運営推進会議前に全家族へメールや郵送にて意見や要望を聞けるよう資料を発送し、幅広く意見を聞けるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	浜松市のサービス事業者連絡協議会に参加し、毎年研修を部会ごとに開催している。コロナ感染症について情報共有をメールにて行っている。	半年に一度のサービス事業者連絡協議会に参加して他施設や行政との連携を図るようにしている。運営推進会議の議事録などを担当部署にメールで送信し情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていない。身体拘束をすることで認知症状の悪化にもつながる事を理解できるように身体拘束対策委員会を開催しケアについて話し合いを行っている。	3か月に1回身体拘束委員会を管理者、リーダー、看護師で実施している。理念に基づき朝の朝礼時に確認を行っていることで、スピーチロックを始め拘束は行われていないと管理者は考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について学ぶ際に高齢者虐待防止関連法についても触れていく。職員の心理的な状況が虐待につながる事を意識し、業務の見直しや、毎日の挨拶声掛けを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様があり、後見人さんと連携を取っている。今後も管理者、職員共々理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の説明や見学を行い、利用者様や家族の不安や疑問点、今までの生活で困難だったことを尋ね書面等を活用し十分な説明を行っている。契約時に入居の継続が困難な場合の説明、ご相談があることも説明を行い納得の上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ならびにご家族様の要望は日々のケアの中で職員が傾聴を行い運営に反映させている。管理者へも話がしやすい状況を設けている。	コロナ禍で家族の面会はできていないため直接意見や要望は聞けていない。ケアプラン更新時に家族に連絡を取り、話を聞く機会を設けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している。管理者との距離も近く日常的に話がしやすい状況を作り、問題が発生した時には機会を設け反映させている。合わせて職員からの匿名でのアンケートも行っている。	月に1回行なっている職員会議やユニット会議において意見を聞くようにしている。利用者の状況変化から電動ベッド2台を購入した。また外に出られるようにしたいとの意見から畑だった場所を芝生に造成する計画を立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に5日まで希望休を申請できる環境を整え、負担の無いように休みが取りやすく、働きやすい職場を目指している。キャリアパス制度を用いて向上心を持って働けるように整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得を働きながら無理なく行えるよう休みが取りやすい環境を整備している。働きながら職員を育てるため、職員同士の交流や意見交換が行いやすい環境整備に努めている。職員による勉強会の開催を今年度から始め職員育成に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県グループホーム連絡協議会と浜松市のサービス事業者連絡協議会に加盟し情報を得ている。同法人にグループホームがあるため、取り組みの確認等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、アセスメントを行い本人の不安を傾聴するよう努めている。初期は特に慣れない場所での生活に戸惑いがある事を考慮して対応行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお便りを行い、家族と職員との交流を行っている。施設側からも協力をお願い出来るような関係性作りをし、相互に不安のない関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員、ケアマネ、看護師、医師、管理者と情報共有を行い、状況・状態を把握し、本人と家族が何に困っているか不安を感じているかを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングでの席の配置に気を配り、関係性が上手くいくように職員がコミュニケーションの橋渡しを行い、認知症を配慮し過度な席移動をしないように配慮している。日常の中で本人様の出来ることを見極め		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に、本人を支えていけるよう、定期的な面会を行えるように支援している。コロナ禍でもありテレビ電話での面会も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに利用してきた床屋だつたり定期的に通えるように支援を行っている。馴染みの人や場所の把握を家族に聞いたり、本人から聞けるように声掛けを行っている。	コロナ禍であり、今は会いに来てくれる知人や家族がほとんどいないが、半年ほど前にコロナが落ち着いた時に、定期的に訪れていた床屋に利用者を連れて行くことができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、耳が遠かったりと必要があれば職員が間に入り、関わり合いの手助けを行い、一人ひとりが孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に、サービス利用が終了しても、訪ねやすい相談しやすい支援に努めている。定期的な訪問は無いが、ご家族が民生委員を務めるようになり当施設の話題を発信してくれたりする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伝えられない利用者様には、ご家族様からの情報をもとに支援している。基本的には日常会話の中から本人の希望を聞きとり、情報共有を行い、小さなことでも本人本位での意向に沿うように、少しでも施設での生活が楽しめるように、努めている。	入所前に美容師の仕事に従事していた方が、他の利用者さんの髪をとかしきれいにしている。利用者さんの中に民謡を習っていた方や趣味でギターを習っていた方が多くいることから、発表の場を設け楽しみに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能であれば、自宅での生活の様子を確認させていただいている。ご家族様と本人に今までの生活歴の聞き取りを行っている。それ以外でもこれまでの暮らし方の情報が聞き取れた際は、職員間での共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録への記載についていつも違う言動があった際には記録を残し変化について把握できるようにしている。食事や排せつ睡眠に関しても同様に把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアの重要性を理解し色々な角度から意見を出して頂き介護計画に反映させている。より良い暮らしと本人の状況を合わせて無理のない支援に努めている。	個々の利用者に担当職員がおり、担当者を中心にユニット会議において話し合い介護計画を立てている。職員個々の感じたことを記入できるように書面を作成しており、全員の意見で計画が立てられるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への詳細な記録を行い、毎日の朝礼にて職員間での情報共有を行い、毎月ユニット会議を行い、職員会議にてケアの実践、結果を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということもあり、既存のサービスに捉われない安全の確保と家族の理解が必要となってきたため、車でドライブしたり、施設内で出来る行事に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、認知症カフェや施設のイベントへの参加がほとんどなくなってしまった。近隣の障がい者施設との繋がりをもとに、直接的な参加ではなくても協働できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、月に2回の訪問診療と24時間対応での相談を行っている。適切な医療が受けられるように、関係性を築きながら本人及び家族の希望を聞き、支援を行っている。	看護師が週に4回介護職員として従事しているため、医療に関しては安心に繋がっている。かかりつけ医や看護師とは、緊急時の電話連絡を取れる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子と違うことがあれば、看護職に伝えて相談できる環境がある。介護職と看護職と協働し、本人の生活の不安を取り除けるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働をおこなっている。コロナ禍で面会が行えないが、電話で日々の様子や経過の情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針を定め、基本的な姿勢として、常時医療行為が必要でない限り、疼痛や苦痛が無く家族が望むような過ごし方が出来るよう対応することを契約時にも説明を行っている。日々の状況をご家族様と共有し、事業所で出来ることを説明、理解して頂き方針を共有している。	食事の呑み込みが悪くなって来たり、量が少なくなって来たりし、医者が看取りになってきたと判断した際に関係者全員で会議を行っている。2年間で5人の看取りを行い、看取り後のカンファレンスも行われており、職員も安心して看取り介護が行なえている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に初期対応をすべての職員が対応できるように努めている。提携医療機関との連絡相談が出来る環境の為、対応が分からない場合は指示を受けることも出来る。管理者や看護師へ救急時の連絡も徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。夜間帯での災害想定での避難訓練も実施している。運営推進会議で地域との協力についても話し合いを行っている。	夜間帯に2人の職員でどこまでの避難ができるのか、訓練を行っている。PCBは作成されている。食料は施設で作っているため3日分の備蓄をしている。まだ、非常持ち出し袋の準備はできていないことから早急に準備したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するとともに、目上の人への対応という事を常に意識するため、苗字での声掛けを行っている。否定をしない言葉かけや対応をしている。排泄確認にも気を配り対応している。	職員全員が苗字での声掛けを徹底しているが、同じ苗字の方のみ名前で呼ぶようになっている。基本的なことではあるが、トイレ誘導の声掛けは他利用者の前では行わない、ドアは閉める、介護記録の記入は利用者の前では行わないことを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を日常の会話などを通じて把握できるよう声掛けを行っている。小さなことでも自己決定行えるように、確認してから手伝いをしていたり、誕生日に好きな物が食べられるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合で、実際に動いてしまっている事実を職員は理解し、少しでも一人ひとりのペースや希望に合わせて、支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用開始前までの、その方の身だしなみやおしゃれを継続して出来るように、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握出来る範囲で提供を行う。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人の好みはモニタリングの中でわかり、昼食は職員が手作りをしている。朝夕食は外注を利用している。利用者はお盆やテーブル、お皿拭きのお手伝いや、自分で食事を持って行ける方には運んでもらう等出来ることはやっていたい。	広い畑が外にあるが草が伸びるだけになっている。畑に手を入れ、作物や花などを栽培できるように近隣の方にボランティアを募る等、利用者の楽しみの一つとして活用できることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に把握している。一人ひとりの状態に合わせて食形態を変えたり、好みを把握して提供している。月に一度体重測定を行い、食べる量やバランスに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて促し、イソジンでのうがいを歯磨き、入歯の方は週に一度、入歯洗浄を行っている。口腔ケアが自分では行えない場合は、その方にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援の為、出来る限りオムツの使用は控えている。排泄パターンや行動を注視し、失敗のある前に声掛けや誘導を行っている。	寝たきりの方以外はすべての利用者が紙パンツで過ごされている。排泄表などは作られていないが、利用者の様子を見ながら声掛けを行いトイレへ誘導している。朝一番の水分補給やヨーグルト摂取などで便秘予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時と15時に体操を行っている。夕食時オリブオイルを味に影響が無いように使用したり、個々に応じた予防と排泄の確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回のペースで入浴を行っている。個々の希望によって入浴を行えるように支援している。時間帯は決まってしまう。要望があれば、足湯を提供したりしている。	週2回の入浴は行われているが、入浴日以外でも希望者には足浴を行なっている。保湿が保たれるように入浴剤を使用したり、ゆず湯などで行事浴も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、入眠時の服装や室温の調整を行っている。夜間に眠れない利用者様に対しては話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりして安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量をファイリングし、いつでも確認出来るようにしている。症状に変化があれば看護師へ報告相談し適切な対応が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、会話の中でやりたいことを見つけ、気分転換をして頂けるよう役割を持っていただいたり、コミュニケーションを取り楽しめるような環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもあり、外出や買い物は少なくなりましたが、行きつけの床屋や、車から降りずにドライブに行ったりという支援を感染症予防に努めながら行っている。。	現在はコロナ禍のため、施設の敷地内を散歩することしかできていない。感染予防に留意しながら外食、買い物など外出の予定を立てている。ドライブに出掛ける支援は継続して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金の所持を行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をしたりできる環境を、ご家族様との相談、協力の下に整備、支援している。手紙のやりとりも行い、個々人の居室に飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間づくりの為、一人ひとりの気温の感じ方の情報収集をしたり、季節ごとの掲示物を作ったりして工夫をしている。	利用者個々の寒暖差の違いを職員が共有し温度設定を行っている。利用者と職員が一緒に製作している手作りの貼り絵(富士山や紅葉)や習字を掲示し、季節がわかるような工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所づくりの為、日々の様子を観察し席替えを行ったり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物を何点か持ち込んでいただき、本人の部屋と認識できるような、居心地の良い居室づくりに配慮している。	今まで家庭で使用していたテレビや馴染みのある椅子、仏壇を持ち込んでいる方もいる。日舞を習っていた方で扇子を飾られている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物の高さや、案内表示などを工夫しつつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。居室での転倒予防の為に整理整頓を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100223		
法人名	株式会社オハナ		
事業所名	三ヶ日グループホーム		
所在地	浜松市北区三ヶ日町都築2922-2		
自己評価作成日	令和4年 9月 28日	評価結果市町村受理日	令和4年 12月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 10月 14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナウイルス感染拡大の防止の為、外出や外部の方との行事を中止しています。「心に寄り添い、心と心が通う時間を」という理念があり、具体的な方法として傾聴を掲げている。

毎日朝礼にて「穏やかな態度言葉遣いで接しましょう」と意識付けを行っている。日常生活でそれぞれの利用者様の出来ることを見つけ、掃除や洗濯、調理を手伝っていただきながら生活することで生き生きとした表情が見られるように支援を行っている。

職員においては介護福祉士を取得している職員が半数以上勤めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「心と心に寄り添い、心と心が通う時間を」を共有している。理念に基づき職員が利用者様と穏やかに接する事が出来るように、朝礼時に出勤職員で共有行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の拡大の為、地域行事への参加や近隣小学校との交流ができていない。秋祭りも施設内での開催にとどめて行った。近隣の障がい者施設のウクライナ難民支援の企画に利用者様に絵を描いて頂き参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度の認知症カフェを行っていたが、コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度も開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染症の拡大防止の為、今年度も書面開催とさせていただいた。FAXやメールを用いて報告についての評価や助言を受け、議事録を閲覧できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	浜松市のサービス事業者連絡協議会に参加し、毎年研修を部会ごとに開催している。コロナ感染症について情報共有をメールにて行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていない。身体拘束をすることでの認知症状の悪化にもつながる事を理解できるように身体拘束対策委員会を開催しケアについて話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束について学ぶ際に高齢者虐待防止関連法についても触れていく。職員の心理的な状況が虐待につながる事を意識し、業務の見直しや、毎日の挨拶声掛けを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様があり、後見人さんと連携を取っている。今後も管理者、職員共々理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の説明や見学を行い、利用者様や家族の不安や疑問点、今までの生活で困難だったことを尋ね書面等を活用し十分な説明を行っている。契約時に入居の継続が困難な場合の説明、ご相談があることも説明を行い納得の上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ならびにご家族様の要望は日々のケアの中で職員が傾聴を行い運営に反映させている。管理者へも話がしやすい状況を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している。管理者との距離も近日常的に話がしやすい状況を作り、問題が発生した時には機会を設け反映させている。合わせて職員からの匿名でのアンケートも行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に5日まで希望休を申請できる環境を整え、負担の無いように休みが取りやすく、働きやすい職場を目指している。キャリアパス制度を用いて向上心を持って働けるように整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得を働きながら無理なく行えるよう休みが取りやすい環境を整備している。働きながら職員を育てるため、職員同士の交流や意見交換が行いやすい環境整備に努めている。職員による勉強会の開催を今年度から始め職員育成に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県グループホーム連絡協議会と浜松市のサービス事業者連絡協議会に加盟し情報を得ている。同法人にグループホームがあるため、取り組みの確認等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、アセスメントを行い本人の不安を傾聴するよう努めている。初期は特に慣れない場所での生活に戸惑いがある事を考慮して対応行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお便りを行い、家族と職員との交流を行っている。施設側からも協力をお願い出来るような関係性作りをし、相互に不安のない関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員、ケアマネ、看護師、医師、管理者と情報共有を行い、状況・状態を把握し、本人と家族が何に困っているか不安を感じているかを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングでの席の配置に気を配り、関係性が上手にいくように職員がコミュニケーションの橋渡しを行い、認知症を配慮し過度な席移動をしないように配慮している。日常の中で本人様の出来ることを見極め		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に、本人を支えていけるよう、定期的な面会を行えるように支援している。コロナ禍でもありテレビ電話での面会も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに利用してきた床屋だつたり定期的に通えるように支援を行っている。馴染みの人や場所の把握を家族に聞いたり、本人から聞けるように声掛けを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、耳が遠かったりと必要があれば職員が間に入り、関わり合いの手助けを行い、一人ひとりが孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にし、サービス利用が終了しても、訪ねやすい相談しやすい支援に努めている。定期的な訪問は無いが、ご家族が民生委員を務めるようになり当施設の話題を発信してくれてたりする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伝えられない利用者様には、ご家族様からの情報をもとに支援している。基本的には日常会話の中から本人の希望を聞きとり、情報共有を行い、小さなことでも本人本位での意向に沿うように、少しでも施設での生活が楽しめるように、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能であれば、自宅での生活の様子を確認させていただいている。ご家族様と本人に今までの生活歴の聞き取りを行っている。それ以外でもこれまでの暮らし方の情報が聞き取れた際は、職員間での共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録への記載についていつもと違う言動があった際には記録を残し変化について把握できるようにしている。食事や排せつ睡眠に関しても同様に把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアの重要性を理解し色々な角度から意見を出して頂き介護計画に反映させている。より良い暮らしと本人の状況を合わせて無理のない支援に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への詳細な記録を行い、毎日の朝礼にて職員間での情報共有を行い、毎月ユニット会議を行い、職員会議にてケアの実践、結果を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということもあり、既存のサービスに捉われない安全の確保と家族の理解が必要となってきたため、車でドライブしたり、施設内で出来る行事に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、認知症カフェや施設のイベントへの参加がほとんどなくなってしまった。近隣の障がい者施設との繋がりをもとに、直接的な参加ではなくても協働できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、月に2回の訪問診療と24時間対応での相談を行っている。適切な医療が受けられるように、関係性を築きながら本人及び家族の希望を聞き、支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子と違うことがあれば、看護職に伝えて相談できる環境がある。介護職と看護職と協働し、本人の生活の不安を取り除けるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働をおこなっている。コロナ禍で面会が行えないが、電話で日々の様子や経過の情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針を定め、基本的な姿勢として、常時医療行為が必要でない限り、疼痛や苦痛が無く家族が望むような過ごし方が出来るよう対応することを契約時にも説明を行っている。日々の状況をご家族様と共有し、事業所で出来ることを説明、理解して頂き方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に初期対応をすべての職員が対応できるように努めている。提携医療機関との連絡相談が出来る環境の為、対応が分からない場合は指示を受けることも出来る。管理者や看護師へ救急時の連絡も徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。夜間帯での災害想定避難訓練も実施している。運営推進会議で地域との協力についても話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するとともに、目上の人への対応という事を常に意識するため、苗字での声掛けを行っている。否定をしない言葉かけや対応をしている。排泄確認にも気を配り対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を日常の会話などを通じて把握できるよう声掛けを行っている。小さなことでも自己決定行えるように、確認してから手伝いをしていたり、誕生日に好きな物が食べられるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合で、実際に動いてしまっている事実を職員は理解し、少しでも一人ひとりのペースや希望に合わせて、支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用開始前までの、その方の身だしなみやおしゃれを継続して出来るように、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し出来る範囲で提供を行う。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に把握している。一人ひとりの状態に合わせて食形態を変えたり、好みを把握して提供している。月に一度体重測定を行い、食べる量やバランスに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて促し、イソジンでのうがいを歯磨き、入歯の方は週に一度、入歯洗浄を行っている。口腔ケアが自分では行えない場合は、その方にあつた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援の為、出来る限りオムツの使用は控えている。排泄パターンや行動を注視し、失敗のある前に声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時と15時に体操を行っている。夕食時オリブオイルを味に影響が無いように使用したり、個々に応じた予防と排泄の確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回のペースで入浴を行っている。個々の希望によって入浴を行えるように支援している。時間帯は決まってしまう。要望があれば、足湯を提供したりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、入眠時の服装や室温の調整を行っている。夜間に眠れない利用者様に対しては話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりして安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量をファイリングし、いつでも確認出来るようにしている。症状に変化があれば看護師へ報告相談し適切な対応が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、会話の中でやりたいことを見つけ、気分転換をして頂けるよう役割を持っていただいたり、コミュニケーションを取り楽しめるような環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということも有り、外出や買い物は少なくなりましたが、行きつけの床屋や、車から降りずにドライブに行ったりという支援を感染症予防に努めながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金の所持を行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をしたりできる環境を、ご家族様との相談、協力の下に整備、支援している。手紙のやりとりも行い、個々人の居室に飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間づくりの為、一人ひとりの気温の感じ方の情報収集をしたり、季節ごとの掲示物を作ったりして工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所づくりの為、日々の様子を観察し席替えを行ったり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物を何点か持ち込んでいただき、本人の部屋と認識できるような、居心地の良い居室づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物の高さや、案内表示などを工夫しつつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。居室での転倒予防の為に整理整頓を行っている。		